

子ども未来支援事業
 (子ども食堂)
 事業計画書 (記載例)

こども食堂名称 代表者名	こども食堂〇〇
連絡責任者	氏名 住所 電話 FAX メール
開設場所 (住所)	A地区 △△公民館 (〇〇市・・・)
開設日 (予定日)	令和2年5月20日(水)
1日あたりの平均参加者数(子どもの数)	約15人/回
運営スタッフ数(ボランティア含む)	約10人/回
開催状況	開催頻度 月1回(第2水曜日) 開催時間 午後5時から8時まで
対象(呼びかけ)地域	・〇〇市A地区
参加対象者	・18歳以下の子ども(ひとり親家庭の子、欠食が続いている子含む)
費用徴収の概要	18歳以下: 無料 大人: 300円
子ども食堂での実施プログラム	午後3時～ ボランティア集合、調理開始 午後5時半～ 配膳 午後6時～ 食事 午後7時～ レクリエーション(勉強会、レクリエーション) 午後8時 子どもたち見送り 午後8時半 後片付け終了、解散

子ども食堂開設のきっかけ	
申込理由	<p>令和元年度に子ども食堂を開催し2回運営をしてみたところ、子どもやその保護者20人ほどの参加があり、子ども食堂を継続して実施してほしいという声もあった。また、食材の寄付やボランティアの協力を得ながら運営することができ、今後も継続して協力してもらえる予定である。</p> <p>令和2年度からは毎月1回実施し、子どもの居場所として定着していきたいと思っているが、定期開催によるPRチラシ作成費や参加者の保険代など経費が必要となるため申請した。</p>
助成金を活用する取り組み	<p>①開設前の打ち合わせ経費 打ち合わせの会場代 2回分</p> <p>②子ども食堂運営にかかる備品等の購入 炊飯器、フライパン、食器など食事提供にかかる備品等を購入予定 子ども食堂の環境整備にかかる絵本、おもちゃ等を購入予定 運営にかかる会場代、保険料、材料の購入</p> <p>③子ども食堂PRチラシの作成 600部 自治会を通じてA地区に周知（回覧版等）</p>
申込金額	200,000 円
期待される効果等	<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂の開設を通じて、子どもと地域住民とが繋がり、子どもも大人も安心して過ごすことができる居場所となることができる。 チラシを作成し、本会の活動が広く認知されることで、寄付を募ることもでき、活動基盤が強化される。

子ども未来支援事業
 (子ども食堂)
 実績報告書 (記載例)

こども食堂名称 代表者名	こども食堂〇〇
連絡責任者	氏名 住所 電話 メール FAX
実施場所	A地区 △△公民館
開設日	平成31年4月12日 (金)
1日あたりの平均 参加者数 (子どもの数)	20人 /回
運営スタッフ数	15人 /回
開催状況	開催頻度 月1回 (第2水曜日) 開催時間 午後5時から8時まで
対象 (呼びかけ) 地域	〇〇市A地区
参加対象者	18歳以下の子ども (ひとり親家庭の子、欠食が続いている子含む)
費用徴収の概要	18歳以下：無料 大人：300円
子ども食堂での実 施プログラム	午後3時～ ボランティア集合、調理開始 午後5時半～ 配膳 午後6時～ 食事 午後7時～ レクリエーション (勉強会、レクリエーション) 午後8時 子どもたち見送り 午後8時半 後片付け終了、解散

<p>実施した内容</p>	<p>①打ち合わせ経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開設にかかる準備・打ち合わせの実施（2回） O月O日PM7時～ 子ども食堂の目指す方向について打ち合わせ O月O日PM7時～ PRチラシ原稿作成、献立打ち合わせ ・ 地区内のお店に寄付の呼びかけ <p>②子ども食堂運営にかかる備品等の購入</p> <p>炊飯器、フライパン、食器、絵本、おもちゃの購入 会場代、参加者保険料</p> <p>③チラシの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会を通じてA地区の全世帯およびA地区にある児童館・保育所、小学校に配布 600部 ・ ボランティアセンターを通じて大学生の学習支援のボランティアも募集した
<p>事業実施により生まれた成果・効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤食の子どもたちが子ども食堂に参加でき、毎月楽しみにしているという声があった。 ・ 地域の方がボランティアで参加し、子どもたちとの交流が図られた。 ・ 大学生が学習支援のボランティアに参加してくれ、今後は学習支援だけではなく、運営にも携わってくれることになった ・ チラシを活用し広く周知を図ったことで地域の人や法人から野菜や米の提供、寄付を約〇万円集めることができた。 ・ 子ども食堂に参加する子どもたちだけではなく、ボランティアをする地域の方の居場所としても定着が図れた。
<p>こども食堂を通じて見えてきた課題および今後の展望等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの居場所として定着を図るためには継続して実施していくことが必要であり、また子どもの気づきのためには多くの目で子どもを見ていくことが必要であると感じた。 ・ そのためにもボランティアや地域の理解・協力は必要不可欠であり、日ごろから地域ぐるみで地域の子どもの見守る体制づくりが大切であると感じた。